

## 大気浮遊じんの放射能濃度測定結果 (H28. 5/25~6/15)

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内で収集した大気1m<sup>3</sup>あたりの浮遊放射性物質の濃度(ミリベクレル/m<sup>3</sup>)を測定しました。※下段( )内は検出限界値。

測定地点			5/25~6/1	6/1~6/8	6/8~6/15
小高区	川房公会堂 (川房)	Cs134	0.075 (0.013)	不検出 (0.025)	0.027 (0.013)
		Cs137	0.380 (0.015)	0.200 (0.020)	0.180 (0.012)
	金房小学校 (飯崎)	Cs134	0.140 (0.015)	0.025 (0.017)	0.023 (0.017)
		Cs137	0.840 (0.015)	0.130 (0.018)	0.100 (0.017)
	塚原公会堂 (塚原)	Cs134	0.041 (0.016)	0.120 (0.020)	不検出 (0.016)
		Cs137	0.260 (0.014)	0.570 (0.019)	0.081 (0.018)
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	Cs134	不検出 (0.021)	不検出 (0.022)	不検出 (0.016)
		Cs137	0.110 (0.018)	0.076 (0.020)	0.044 (0.018)
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	Cs134	0.022 (0.016)	0.078 (0.015)	0.460 (0.020)
		Cs137	0.110 (0.016)	0.400 (0.014)	2.400 (0.018)

【お知らせ】平成28年4月から、試料の採取方法が7日間の連続吸引に変わりました。

測定地点			5/25~6/1	6/1~6/8	6/8~6/15
原町区	横川ダム (馬場)	Cs134	0.049 (0.014)	0.033 (0.015)	0.025 (0.014)
		Cs137	0.200 (0.014)	0.140 (0.017)	0.130 (0.013)
	原町保健センター (小川町)	Cs134	不検出 (0.021)	0.021 (0.012)	0.015 (0.013)
		Cs137	0.150 (0.017)	0.079 (0.013)	0.077 (0.012)
	高平生涯学習センター (下高平)	Cs134	0.019 (0.015)	0.045 (0.016)	不検出 (0.018)
		Cs137	0.110 (0.013)	0.250 (0.013)	0.064 (0.016)
	市立総合病院 (高見町)	Cs134	0.026 (0.015)	0.021 (0.020)	不検出 (0.016)
		Cs137	0.018 (0.013)	0.150 (0.021)	0.063 (0.011)
	大原公会堂 (大原)	Cs134	0.026 (0.017)	0.031 (0.015)	0.015 (0.013)
		Cs137	0.190 (0.016)	0.130 (0.015)	0.092 (0.011)

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m<sup>3</sup>の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、放射能濃度が検出限界値未満の場合、「不検出」と判定されます。

### ★渡邊正己京都大学名誉教授 (市放射線健康対策委員会委員長)による解説★

観測値に多少の変動はあるもののセシウム137で平均0.26mBq/m<sup>3</sup>、セシウム134で平均0.06mBq/m<sup>3</sup>と低濃度で推移しています。しかし、鹿島区3-3消防屯地で、最近では見られていない濃度の放射性物質(セシウム137で2.4 mBq/m<sup>3</sup>、セシウム134で0.46mBq/m<sup>3</sup>)が観測されましたが、健康影響を心配する濃度には遠く及びません。他の観測地点では、こうしたことはみられず、原発事故現場における作業によって大気浮遊じん放射能が増加するような事態も発生していません。恐らく、周辺の護岸工事等でダンプカーの往来が多く浮遊塵が多くなっていることが原因と思われます。